

第1回 高知県中山間地域 事前復興まちづくり計画策定指針検討会

地震による大規模災害からの復興まちづくりの事例

令和7年8月18日
検討会事務局（高知県南海トラフ地震対策課）

復興まちづくりの事例

災害名	激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律	大規模災害からの復興に関する法律	被災者生活再建支援法 (調査対象候補のみ抜粋)	被災市街地復興特別措置法	ガイドラインなど
平成16年 新潟中越地震	激甚災害	—	新潟県：全域	なし	H17.8 中山間地等の集落散在地域における地震防災対策に関する検討会 提言
平成20年 岩手・宮城内陸地震	激甚災害	なし	宮城県：栗原市	なし	H18.3 被災地域における多様な主体の連携による中山間地域まちづくり推進調査報告書
平成23年 紀伊半島豪雨	激甚災害	なし	奈良県：五條市、天川村、野迫川村、十津川村 和歌山県：全域	なし	H24.4 津波被災市街地復興手法検討調査（とりまとめ）
平成26年 8月豪雨災害	激甚災害	なし	広島県：広島市 兵庫県：丹波市	なし	H25 大規模災害からの復興に関する法律制定
平成28年 熊本地震	激甚災害	非常災害	熊本県：全域	第21条の規定による「入居者資格の特例」が適用	H25.8 地方都市等における地震対応ガイドライン
平成28年 糸魚川市大規模火災	なし	なし	新潟県：糸魚川市	なし	H28.6 津波被害からの復興まちづくりガイダンスについて
平成30年 北海道胆振東部地震	激甚災害	なし	北海道：全域	なし	H28.12 熊本地震を踏まえた応急対策・生活支援策の在り方について（報告）
平成30年 7月豪雨災害	激甚災害	なし	愛媛県：全域、岡山県：全域、広島県：全域	第21条の規定による「入居者資格の特例」が適用	H29.8 大規模災害時における被災者の住まいの確保策に関する検討会
令和2年 7月豪雨災害	激甚災害	非常災害	熊本県：全域	第21条の規定による「入居者資格の特例」が適用	H29.12 糸魚川大規模火災の経験をふまえた、今後の復興まちづくり計画の考え方
令和6年 能登半島地震	激甚災害	非常災害	石川県：全域	第21条の規定による「入居者資格の特例」が適用	H30.7 復興まちづくりのための事前準備ガイドラインについて
					R2.6 防災移転計画制度創設（都市再生特別措置法改正法）
					R3 特定都市河川浸水被害対策法改正（流域治水関連法）特定都市河川 指定要件拡大
					R4.3 津波被害からの復興まちづくりガイダンス（改訂版）について
					R5.7 事前復興まちづくり計画検討のためのガイドラインについて

平成16年新潟中越地震①

中越地震の主な被害状況

発生日時	平成16年10月23日17時56分	
地震の概要	地震規模	マグニチュード6.8
	最大震度	震度7
人的被害	死者（人）	68
	重軽傷者（人）	4,795
住家被害	全壊（棟）	3,175
	半壊（棟）	大規模半壊：2,167 半壊：11,643
	一部損壊（棟）	104,510
	合計（棟）	121,495

出典：災害復興対策事例集 事例コード200404
2004年（平成16年）新潟県中越地震・新潟県 内閣府

復興ビジョンの策定

- 大規模地震からの復興には、被災者や地域の意向を始め、様々な分野の学識経験者など幅広い意見を集約し、**地域全体の復興像を描く必要**があった。そのため復興計画の策定にあたって、まず、復興の基本的方向と中越地域のあるべき姿を示す「**復興ビジョン**」を策定した。
- 復興ビジョンでは、**被災地域全体として共有したい夢の像**を示し、「**創造的復旧**」を大きな柱とする復興のコンセプトが提示された。ここで「創造的復旧」とは、「今度の震災のようなことが起これば、旧に復せないものが数多くあるし、旧を捨てて、かつ全く新しく興せないことも数多くある。**旧を踏まえつつその上に新たなものを生み出していくこと**、これを「創造的復旧」と呼びたい。」とされている。

被害の特徴

- 旧山古志村（現長岡市）を中心とした地域では地震により多くの箇所で**斜面崩壊**や**地すべり**が発生し、**道路の寸断**や芋川流域では**大規模な河道閉塞**が発生して東竹沢地区などで人家が水没するなどの被害が生じた。
- 山間部の旧山古志村では、全村民がヘリコプターで村外へ避難する「**全村避難**」が行われた。山古志村は、翌平成17年春に長岡市と合併することが既に決まっていたこともあり、受け入れもスムーズに進んだ。
- さらに、**震災に引き続き19年振りとなる豪雪に見舞われ**、被災地では、約3,000世帯、9,000人を超す被災者が応急仮設住宅での生活を余儀なくされた。

土砂ダムによりせき止められた水が
家屋を飲み込む



仮設住宅前の雪を除雪



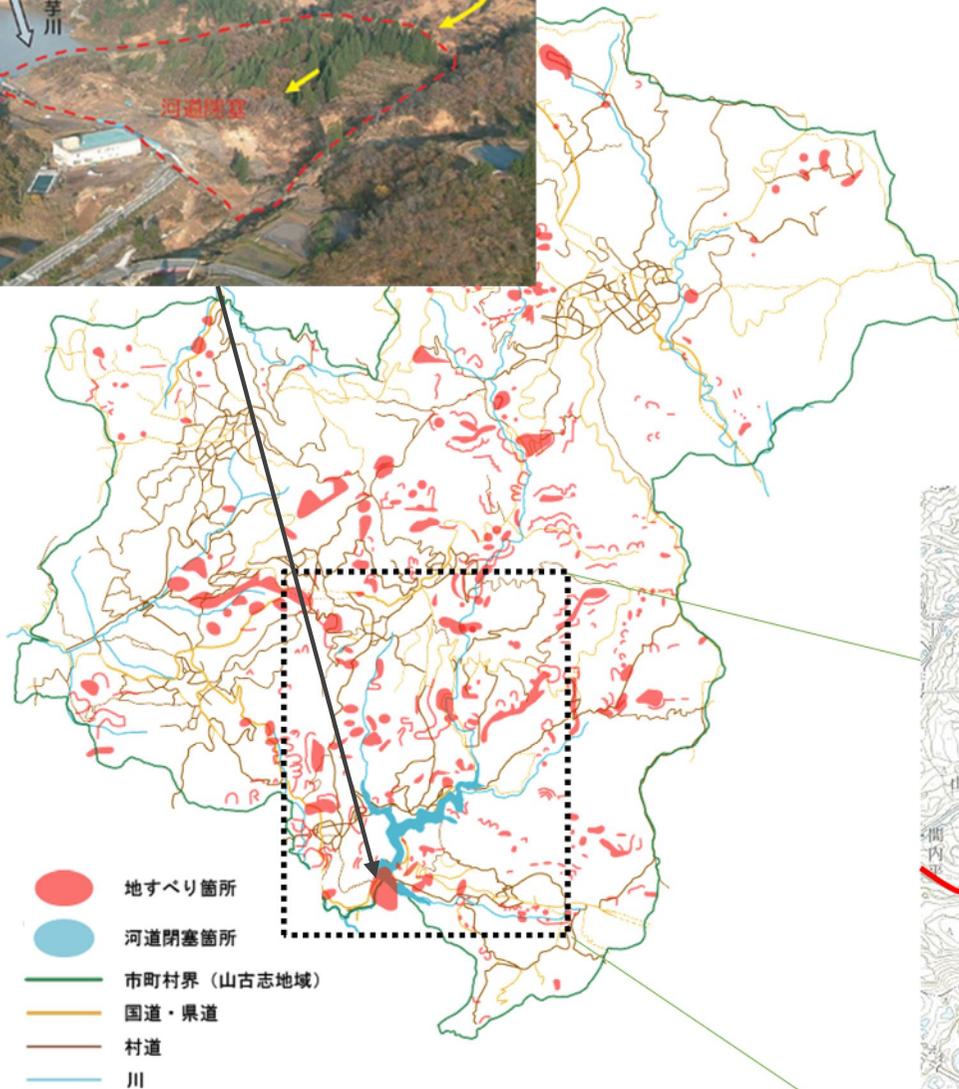
土砂災害による道路寸断



3枚の写真の出典：
新潟県中越大地震～農地・農業用施設の復旧復興に向けて（写真集）～ 新潟県農地部

平成16年新潟中越地震② (復興ビジョン)

東竹沢地区 河道閉塞状況 (H16.11.7)



集落再生の対象となった被害の大きい6集落

集落名	世帯数 人口	家屋 全壊率	標高 (約 m)	
油夫	20世帯 68人	68%	240	南側斜面で大きな崩壊、山古志小中学校を建設
梶金	29世帯 90人	100%	200	国道291号沿道、集落の南北で国道が断絶
木籠	25世帯 67人	100%	150	河道閉塞で集落が水没。復旧県道沿道に移転
大久保	21世帯 53人	95%	280	集落東側、東川流域で大規模な表層崩壊
池谷	34世帯 97人	100%	290	民俗資料館、闘牛場が立地、集落内道路は急勾配で止りが多い
檜木	29世帯 108人	100%	180	すり鉢状の地形、河道閉塞で水没、旧池谷小跡地へ移転



対象となった6集落

— 国道
— 県道

平成16年新潟中越地震③ (復興ビジョン)

- ◆砂防・地すべり対策
- ◆雪害対策

強化された東竹沢の砂防施設



砂防堰堤の奥の平坦地は地すべり堆積地 (2024年9月撮影)
出典：内閣府防災情報のページ 広報誌「ぼうさい」第111号

人家裏の斜面災害復旧

被災写真



対策完成写真



横孔ボーリング工、法枠工

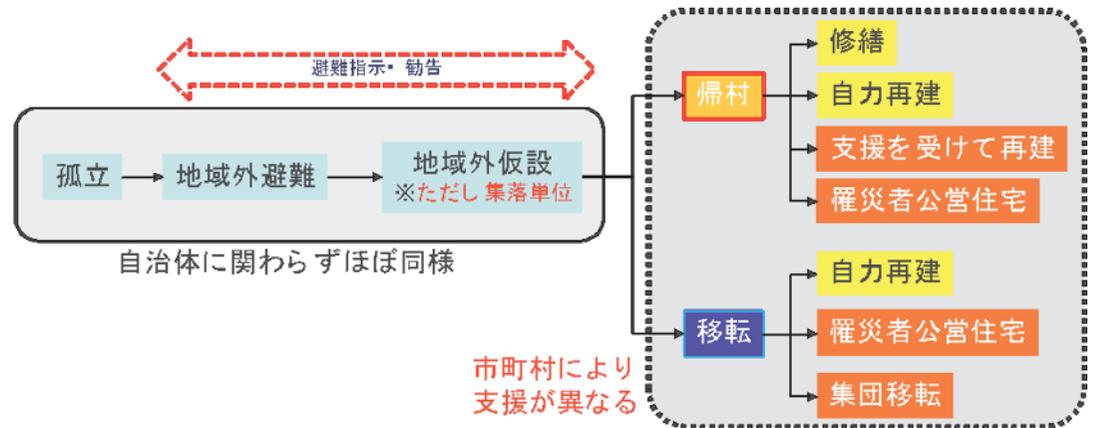
出典：平成16年新潟県土砂災害復興記録集
平成19年3月 新潟県土木部砂防課

- ◆コミュニティの再生
- ◆仮設住宅入居から従前のコミュニティを分断させないように工夫

復興はコミュニティ（集落）の再生から

住宅や農地などを復旧・再建し、避難所や仮設住宅から戻った時期は被災状況によってばらつきがあるものの、多くの地域で**最初に進められた復興への取組は、コミュニティ（集落）の再生**に関わるものだった。

出典：公益社団法人中越防災安全推進機構「新潟モデルの発進」



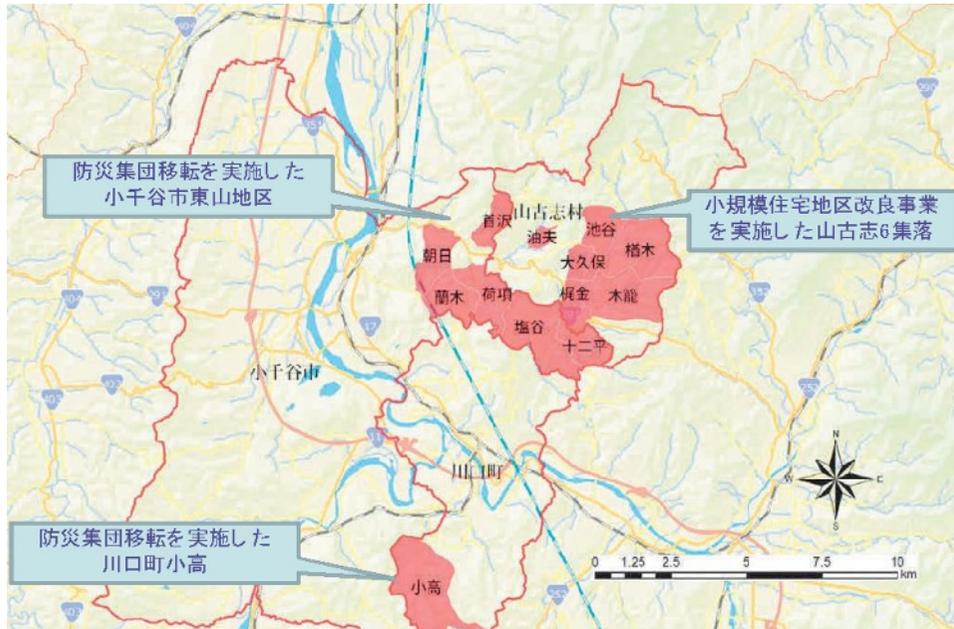
自治体によって異なる生活再建支援

- 住み慣れた生活環境のある集落に戻るための支援（旧山古志村）
- 生活利便性を向上させるために集落を離れるための支援（小千谷市）

出典：集落（集団）移転・集落の再生 中山間地域で暮らしていた人々の生活再建支援 澤田 雅浩 復興（11号）Vol.6 No.2 2014.10.

平成16年新潟中越地震④ (復興ビジョン)

◆河道閉塞により水没した集落や地すべりによって大きな被害を受けた集落の集団移転等による生活再建



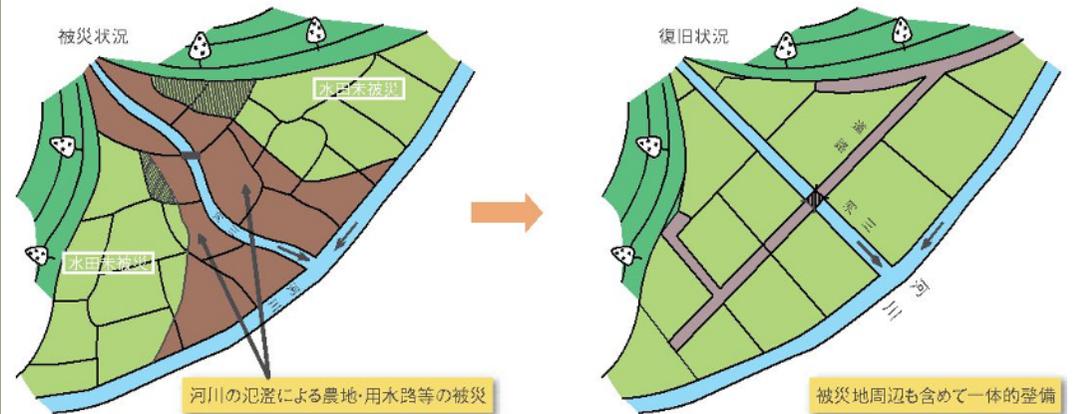
出典：集落（集団）移転・集落の再生 中山間地域で暮らしていた人々の生活再建支援 澤田 雅浩 復興 (11号) Vol.6 No.2 2014.10.



檜木集落が集団移転した高台の「天空の郷」(2024年9月撮影)

出典：内閣府防災情報のページ 広報誌「ぼうさい」第111号

◆単に元に戻すだけでなく、新しい地域農業の将来像を踏まえた創造的復興



被災時の状況 (H16.11)



完了後 (H20.6)

- 被災農地の災害復旧事業に併せて、隣接する未被災農地等を含めて区画を変更
- 再度災害を防止し、農業経営の安定と国土の保全に資する

出典：新潟県ホームページ

平成16年新潟中越地震⑤ (復興ビジョン)

◆美しい棚田の景観

◆復興の象徴 (重要無形民俗文化財「牛の角突き」、錦鯉発祥の地)



- 緩やかな斜面を選んでつくられた棚田は、人々が地すべりと共生してきた地域特有の風景
- 復旧された美しい棚田の景観や、重要無形民俗文化財「牛の角突き」、錦鯉といった地域の宝を、復興の象徴として積極的に発信し、住民の誇りと地域のアイデンティティを継承

美しい棚田の景観が広がる長岡市山古志

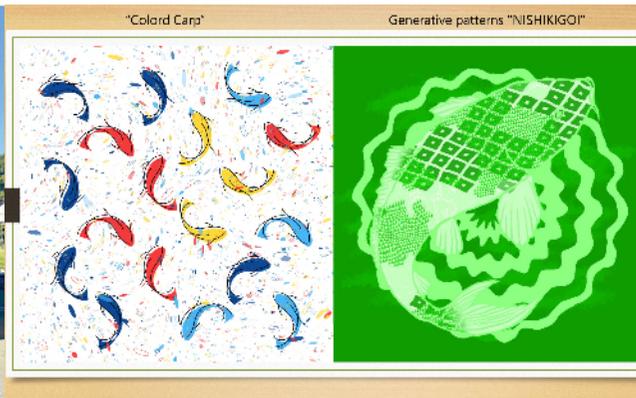
(2024年9月撮影) 出典：内閣府ホームページ

色鮮やかな錦鯉

出典：国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所

◆「デジタル村民」によるバーチャル地域づくりの取組

◆多様な支援者と地域の交流の場



- 旧山古志村の人口は、発災前の2,100人から730人へと減少
- 高齢化率は34.6%から57.0%へ上昇
- 長岡市では、令和3年(2021年)に「電子住民票」の付属したデジタルアート「Nishikigoi NFT」の取組を開始。購入者を山古志の「デジタル村民」と認定することで、バーチャルに地域づくりに関わってもらおうという取組。
- 集落の人はもとより、地域外から来た人たちも気軽に立ち寄れる交流の場

木籠の交流スペース「郷見庵」

(2024年9月撮影) 出典：内閣府ホームページ

山古志の象徴である錦鯉をモチーフにしたデジタルアート

出典：「仮想山古志プロジェクト」山古志住民会議

平成28年熊本地震①

熊本地震の主な被害状況

発生日時	平成28年4月14日21時26分（前震） 平成28年4月16日1時25分（本震）	
地震の概要	地震規模（前震）	マグニチュード6.5
	最大震度（前震）	震度7
	地震規模（本震）	マグニチュード7.3
	最大震度（本震）	震度7
人的被害	死者（人）	273
	重軽傷者（人）	2,809
住家被害	全壊（棟）	8,667
	半壊（棟）	34,719
	一部損壊（棟）	163,500

出典：内閣府 防災情報のページ 災害復興対策事例集

被害の特徴

- 震度7の揺れが28時間内に2度も発生。1度目の揺れ（前震）で耐えた建物が、2度目の本震で倒壊するケースが多発。
- 各地で**190件の土砂災害**が発生し、道路を寸断。ライフラインも甚大な被害を受け、特に**水道の復旧には最大3ヶ月**を要した地域（南阿蘇村）もあった。
- 農林水産業や観光業といった**地域の基幹産業が大きな打撃**を受けた。

特別史跡の石垣が崩落した熊本城



大規模斜面崩壊による主要道路の寸断



復旧・復興プランの策定

- 復旧・復興プランは、平成28年8月に策定。
- 過去の災害においても提唱された「**復旧・復興の3原則**」（**①被災された方々の痛みを最小化する、②単に元あった姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指す、③復旧・復興を熊本の更なる発展につなげる**）を基本に、「くまもと復旧・復興有識者会議」からの提言を踏まえた内容となっている。

2度の揺れによる家屋倒壊



3つの写真の出典：内閣府 防災情報のページ

平成28年熊本地震②（復旧・復興プラン）

◆ 南阿蘇村が目指す復興将来像 復興むらづくり計画に基づく取組を通じて実現を目指す村の姿



平成28年熊本地震③（復旧・復興プラン）

◆地すべり対策

◆寸断された道路の早期の全線開通



①大規模山腹崩壊の対策状況

◆農地の大区画化・汎用化

◆水田の汎用化による高収益作物の導入



被災直後の棚田

現在の棚田

④被災農地の大区画化

- **担い手不足や高齢化という震災前からの課題**を解決するため、被災農地を「**創造的復興**」の理念で再生。
- 単なる復旧に留まらず、農地の大区画化による**作業効率の向上**や、水田の汎用化による**高収益作物（野菜など）への転換**を促進した。

◆くまもと型伝統構法による被災者向け住宅プラン

◆高齢化が進む中山間地域のすまいの選択肢を提示



- 県産材をふんだんに使用した、地元建築士・工務店が造る、小世帯向けのコンパクトな住宅

②熊本的气候や高齢者等を配慮した「くまもと型復興住宅」



- 災害公営住宅と小規模住宅地区改良事業による現地での生活再建

③災害公営住宅の状況

①～④の画像の出典

①南阿蘇村ホームページ

②「木造応急仮設住宅建設の取り組み」一般社団法人 木を活かす建築推進協議会

③南阿蘇村ホームページ

④「熊本地震を乗り越えて～農業者の応援メッセージと復旧・復興事例～」農林水産省九州農政局

平成28年熊本地震④（復旧・復興プラン）

- ◆熊本城の「見せる復興」
- ◆阿蘇の美しい景観の再生



①被害状況や復旧工事を間近で見学



②阿蘇の雄大な草原

- 県民の心の拠り所である熊本城の復旧を、被災状況を公開しながら進める「**見せる復興**」として実施
- これにより、県民の一体感を醸成し、復興への希望の象徴となった
- 阿蘇の草原の再生は、世界的な景観の保全と、観光・農業という地域のなりわいを一体的に守る取り組み

①出典：熊本県公式観光サイト ②出典：南阿蘇村景観計画Ver.2

- ◆人口減少時代の到来を見据えた地域産業・地域経済の復旧
- ◆震災を契機にした新たな観光による活性化



③施設園芸の導入拡大による生産性向上

出典：皆で取り組む創造的復興



④復興過程の観光資源化

出典：熊本災害デジタルアーカイブス

- **産業の高付加価値化**
農地の大区画化や高収益作物への転換により、生産性向上が可能。
- **観光の新たな魅力創出**
熊本城や阿蘇の復興ストーリーそのものを新たな観光資源とし、交流人口を拡大。
- **創造的復興の理念の継承**
これらの復興の経験と教訓をアーカイブ化し、国内外に発信することで、未来の防災・減災に貢献。

令和6年能登半島地震①

能登半島地震の主な被害状況

発生日時	令和6年1月1日16時6分～	
地震の概要	地震規模	マグニチュード7.6
	最大震度	震度7
人的被害	死者（人）	634
	重軽傷者（人）	1,398
住家被害	全壊（棟）	6,532
	半壊（棟）	23,680
	床上浸水（棟）	6
	床下浸水（棟）	19
	一部損壊（棟）	134,949
	合計（棟）	165,186

出典：内閣府 令和6年能登半島地震に係る被害状況等について
(令和7年8月5日)

復興プランの策定

- 石川県創造的復興プランは、令和6年6月に策定。アップデート版を令和7年4月に公表。
- 創造的復興のスローガンとして「能登が示す、ふるさとの未来 Noto, the future of country」が示されている。
- 単に被災前の姿に復元するのではなく、**元々あった課題を踏まえ、未来志向に立って以前よりも良い状態へと持っていく「創造的復興」**を目指す内容となっている。

被害の特徴

- **液状化現象による被害**が石川県、富山県、新潟県の広範囲で発生し、**多くの建物が傾斜または倒壊**した。
- また、**455件の土砂災害**が発生し、土砂災害による人的被害としては死者36名、行方不明者3名にのぼった。
- **道路の寸断**や橋梁の損傷により、被災地へのアクセスが困難となり、救援活動に支障をきたした。
- 輪島市では**地震火災**により、朝市通りを含む約49,000㎡が焼失。
- さらに、ライフラインの途絶が長期化し、被災者の生活再建を困難にした。

石川県能登町内での土砂災害



石川県内灘町内での液状化現象



のと里山海道の道路被害



令和6年能登半島地震②（復興プラン）

復興計画のスローガン・基本方針

輪島市



出典：輪島市復興まちづくり計画

珠洲市

珠洲市復興計画

～魅力ある最先端の復興～

- 基本方針1 より強靱で安全な、災害に強い地域づくり
- 基本方針2 暮らしとコミュニティの再建
- 基本方針3 生産性の向上を図るなりわいの再建
- 基本方針4 自然と文化を活かし、これまでの取り組みを発展させた魅力ある地域の再生
- 基本方針5 DXの推進による「つながる社会」の実現

出典：珠洲市復興計画

◆被災者の生活再建（輪島市）

日常生活を支える地域コミュニティの再建

- 従前からの居住地や仮設住宅、災害公営住宅等、様々な場所での生活を支えるため、被災した集会所等の再建・修復等、地域コミュニティの再構築・育成を図ります。
- 安全・安心な場所への居住に関する地域からの希望に対応した居住地を確保します。
- 将来持続可能な公共交通による移動環境を確保するとともに、人工知能(AI)等の新技術や市民が参画する新たな交通手段の導入により利便性の向上を図ります。

出典：輪島市復興まちづくり計画

◆災害に強い安全・安心なまちづくり（珠洲市）

【防災】 災害に強い安全・安心なまちづくり

自律分散型インフラの導入や災害時の危機管理体制など被災者への対応の充実化を図ります。さらに先駆的な技術として、ドローン配送の物流基盤整備等を進め、我が国のあり方を指し示すことにもつながる魅力ある最先端の復興を成し遂げます。

大施策1-2 災害に強い地域づくり

- 最先端の浄水技術を利用した小規模分散型の飲料水供給システムの構築
- 自主防災組織の強化
- 公共施設等で再生可能エネルギーの地産地消（災害に強い自立・分散型のエネルギーシステムの構築・推進）



災害に強い自立・分散型のエネルギーシステムのイメージ

大施策1-3 危機管理体制の検証と充実

- 課題の抽出、防災計画や地震被害想定の見直し
- 災害記録誌の作成と防災教育の推進
- ドローンの整備と訓練



ドローンの整備と訓練のイメージ

出典：珠洲市復興計画

令和6年能登半島地震③ (復興プラン)

◆復興に向けたシンボルプロジェクト (輪島市)

◆自然と文化を活かし、これまでの取組を発展させた魅力ある地域の再生 (珠洲市)

シンボルプロジェクト

輪島朝市周辺 再生プロジェクト

地震及び火災で甚大な被害を受けた朝市周辺を輪島市における復興のシンボルとして再建し、防災対策を強化しながら朝市と商店街及び住まいの共生を目指した市街地整備を行います。また、新たなチャレンジや交流を促進して、新しいまちとして生まれ変わるための環境整備及び支援を行います。



→基本計画 ■ 2-1-2 朝市通りや商店街の復興 →P.33

出典：輪島市復興まちづくり計画

【珠洲ブランド】里山里海をベースとした「珠洲ブランド」の価値向上

特徴あるこれまでの取組みを復興への光と位置付けます。アートや先駆的な技術を取り入れた新たな地域づくり、新たな生業(なりわい)づくりを推進することにより、「珠洲ブランド」の価値向上を図ります。

大施策 4-4 世界農業遺産など「珠洲ブランド」の価値向上

- GIAHSに認定された里山里海の保全・活用
- トキ放鳥に向けた餌場づくりなど地域の取組支援
- 引退競走馬を活かす取組みの推進

大施策 4-5 SDGsの推進

- 地域循環共生圏の形成
- 能登 SDGsラボの活用による地域課題の解決の推進



揚げ浜塩田

出典：珠洲市復興計画

◆DXの推進による「つながる社会」の実現 (珠洲市)

【防災×DX】DXを活用した災害に強い地域づくり

自動運転やドローン配送等の導入、スマート生活の実現などにより「つながる社会」の実現を目指し、「より強靱で安全な、災害に強い地域づくり」を図ります。

大施策1-1 市民生活を支える公共施設の強靱化(再掲)

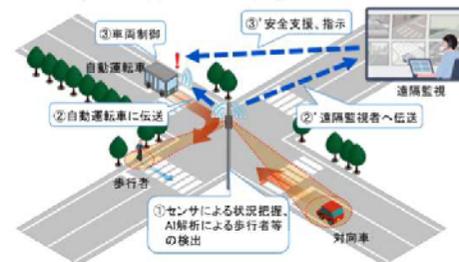
- 自動運転技術に適した道路環境整備

大施策1-3 危機管理体制の検証と充実(再掲)

- ICTを活用した避難経路等の情報伝達や平時における市民の健康状態の把握、情報共有体制の構築

大施策1-4 情報通信基盤の強靱化(再掲)

- 無線通信の高度化に向けた5G等の普及促進



自動運転に対応する道路インフラ



5G等の普及促進のイメージ

出典：珠洲市復興計画

被災市町村の復興計画リンク一覧

対象災害	市町村	復興計画URL	QRコード
平成16年 新潟中越地震	旧山古志村	http://www.yamakoshi2004.jp/	
	長岡市	https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate01/sinsai/fukko-keikaku.html	
	小千谷市	https://www.city.ojiya.niigata.jp/soshiki/nigiwai/fukkokensho.html	
平成28年 熊本地震	南阿蘇村	https://www.vill.minamiaso.lg.jp/kiji003706/index.html	
令和6年 能登半島地震	輪島市	https://www.city.wajima.ishikawa.jp/docs/2025021400019/	
	珠洲市	https://www.city.suzu.lg.jp/site/r6-notohantou/21303.html	